

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 23 年 2 月 17 日 10 時 45 分～12 時 00 分)

## 注意事項

1. 試験問題の数は 55 問で解答時間は正味 1 時間 15 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

各問題には 1 から 4 までの 4 つの選択肢、もしくは 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)、(例 2)では 1 つ、(例 3)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。

なお、(例 1)、(例 2)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 3)の質問には 1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1)

101 助産業務が行えるのはどれか。

1. 合格発表日以降
2. 合格証書受領日以降
3. 助産師籍登録日以降
4. 免許証受領日以降

正解は「3」であるから答案用紙の ③ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、		答案用紙②の場合、	
101	① ② ③ ④	101	101
	↓	①	①
101	① ② ● ④	②	②
		③	→ ●
		④	④

(例2)

102 助産師国家試験の受験資格が規定されているのはどれか。

1. 医療法
2. 学校教育法
3. 母子保健法
4. 保健師助産師看護師法
5. 看護師等の人材確保の促進に関する法律

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
102	①	②	③	④	⑤	102	102			
	①	②	③	④	⑤	①	①			
			↓			②	②			
102	①	②	③	●	⑤	③	→	③		
						④		●		
						⑤		⑤		

(例3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
103	①	②	③	④	⑤	103	103			
	①	②	③	④	⑤	①	●			
			↓			②	②			
103	●	②	③	④	●	③	→	③		
						④		④		
						⑤		●		

- 1 ICM (国際助産師連盟) が示す基本的助産業務に必須な能力はどれか。
  1. 専門医の診察を必要とする女性を判別し、照会する。
  2. 助産師が中心となり女性の健康に関する方法を決定する。
  3. 文化的背景が異なる女性に対して同一のケアを提供する。
  4. 学童に必須な健康のために質の高い包括的なケアを提供する。
  
- 2 女性の性ホルモンの変動で正しいのはどれか。
  1. 思春期には、性ホルモンが低濃度のまま初経が発来する。
  2. 妊娠初期には、妊娠黄体から分泌される性ホルモンが妊娠維持に寄与する。
  3. 産褥期には、性ホルモンによって乳腺の機能が抑制される。
  4. 更年期には、性ホルモンの低下に伴い FSH の分泌は減少する。
  
- 3 胎児への放射線の影響で正しいのはどれか。
  1. 閾線量未満であっても奇形発生のリスクはある。
  2. 胎児の発癌に関する放射線の感受性は成人と同じである。
  3. 妊娠 10 週以降の閾線量以上の被ばくでは精神発達遅滞のリスクがある。
  4. 閾線量以上の被ばくでは妊娠 4 週未満よりも妊娠 4 ～10 週の方が胎児死亡のリスクが高い。
  
- 4 ディック・リードの理論で正しいのはどれか。
  1. 緊張が痛みを増強する。
  2. 痛みに関値が存在する。
  3. 一点を見つめることで痛みが緩和する。
  4. 分娩経過の知識があると恐怖が増強する。

5 在胎 40 週、2,200 g で出生した男児。出生時の身長 46 cm、頭囲 29 cm。診察所見で眼裂の狭小、小下顎、不明瞭な人中および薄い上唇が認められた。

最も疑われるのはどれか。

1. 18 トリソミー
2. 21 トリソミー
3. 先天性風疹症候群
4. 胎児性アルコール症候群

6 精巢性女性化症候群で正しいのはどれか。

1. 子宮は存在する。
2. 核型は 47, XYY である。
3. 精巣腫瘍の発生するリスクが高い。
4. 精巣からのアンドロゲン産生異常である。

7 下垂体性排卵障害の治療法で適切なのはどれか。

1. GnRH 療法
2. hMG-hCG 療法
3. カウフマン療法
4. クロミフェン療法

8 不均衡型胎児発育不全の原因となるのはどれか。

1. 先天奇形
2. 染色体異常
3. 子宮内感染
4. 母体低栄養

9 分娩時の胎勢とその説明の組合せで正しいのはどれか。

1. 頭頂位 ——— 矢状縫合を先進部として骨盤に進入
2. 後頭位 ——— 前後径を含む平面で骨盤に進入
3. 前頭位 ——— 大斜径を含む平面で骨盤に進入
4. 額 位 ——— 小斜径を含む平面で骨盤に進入

10 分娩期の母体の変化で正しいのはどれか。

1. 白血球数は減少する。
2. 血液凝固能は低下する。
3. 子宮頸部のコラーゲンの量は減少する。
4. エストロゲン/プロゲステロン比が低下する。

11 老年期の女性に多い疾患で正しいのはどれか。

1. 子宮脱では高率に子宮頸部の短縮をきたす。
2. 骨粗鬆症の治療には黄体ホルモン製剤が有効である。
3. 萎縮性膀胱の治療にはエストリオール製剤が有効である。
4. 妊娠・出産回数が多いことは子宮体癌の危険因子になる。

12 過期妊娠で正しいのはどれか。

1. 胎児の成長は停止する。
2. 周産期死亡率は増加する。
3. 頻度は全妊娠の約 10 % である。
4. 胎便吸引症候群 (MAS) のリスクは変化しない。

13 前置胎盤で正しいのはどれか。

1. 常位胎盤よりも癒着胎盤の頻度が高い。
2. 母体年齢が低いと発症頻度が増加する。
3. 既往帝王切開妊婦での発症頻度が低い。
4. 常位胎盤よりも低出生体重児の頻度が低い。

14 晩期産褥出血で正しいのはどれか。

1. 全分娩例の5～7%に生じる。
2. 2/3は機能性出血と分類される。
3. 出血の時期は分娩後1～2週が多い。
4. 胎盤ポリープが原因の場合、子宮収縮薬が有効である。

15 在胎39週、3,400gで経膈分娩によって出生した新生児。生後2日目に39℃台の発熱と全身性の皮疹がみられた。活気はあり、その他の身体所見で異常を認めない。血小板5.4万/ $\mu$ l。CRP 1.2 mg/dl。皮膚の写真(別冊No. 1A、B)を別に示す。

原因で考えられるのはどれか。

1. 大腸菌
2. リステリア菌
3. B群溶血性レンサ球菌(GBS)
4. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)

別冊

No. 1 A、B

- 16 正期産児と比較した早産児の特徴で正しいのはどれか。
1. 不感蒸泄量が多い。
  2. 肺内の気道抵抗が相対的に小さい。
  3. 肝・筋のグリコーゲン貯蔵が多い。
  4. 障害された中枢神経系は可塑性が低い。
- 17 妊娠 37 週以降の胎児心拍モニタリングで正常なのはどれか。
1. 基線が 100 bpm である。
  2. 40 分以上にわたり基線細変動が 5 bpm 以下である。
  3. 30 秒の間に基線から 15 bpm 以上上昇し、2 分未満で戻る。
  4. 子宮収縮と同時に基線から 30 bpm 低下し、2 分未満で戻る。
- 18 14 歳の女子。地域の思春期相談窓口で電話をかけ「他に相談する場所がない。でもうまく話せる自信がない」と話した。
- 電話を受けた助産師の初期対応で最も適切なのはどれか。
1. 思春期に多い相談内容を例示して話を促す。
  2. 相談のために行動を起こしたことをねぎらう。
  3. 話したいことを明確にしてからもう一度電話するように勧める。
  4. 相談内容によっては親や教師へ連絡する必要があることを伝える。

19 52歳の女性。事務職。2年前から無月経である。「最近よく汗をかき、体が熱いです。しょっちゅうイライラしています」と訴え、生活に関する助言を求めている。

生活指導で適切なのはどれか。

1. 「仕事をされているので特に運動は必要ないでしょう」
2. 「体力維持のためにカロリーの高い食事を摂りましょう」
3. 「職場の定期健康診断を受けていれば問題ないでしょう」
4. 「友人との交際など、自分に合った気分転換方法を見つけましょう」

20 分娩予定日の算出で正しいのはどれか。

1. 人工授精施行日に280日を加える。
2. 基礎体温の高温相の2日目に266日を加える。
3. hMG-hCG療法のhCG投与日に280日を加える。
4. 体外受精・胚移植の体外受精日に266日を加える。

21 胎盤剥離徴候のうち、子宮底の位置の変化を観察するのはどれか。

1. Ahlfeld 徴候
2. Küstner 徴候
3. Schröder 徴候
4. Strassmann 徴候

22 胎内環境不良を疑う胎児付属物の所見はどれか。

1. 臍帯偽結節
2. 臍帯の卵膜付着
3. 羊水中の白色の浮遊物
4. 胎盤母体面の5%程度の白色梗塞



23 34歳の1回経産婦。3年前に分娩所要時間38時間で3,200gの児を経膈分娩した。妊娠39週0日。児の推定体重は2,710g。助産師外来にて「前回のお産では痛みが何時間も続く中で、陣痛室ですと孤独で本当につらかった」とうつぶいて話す。

この産婦に対する最初の声かけで適切なのはどれか。

1. 「つらかったことが忘れられないのですね」
2. 「もっと長い時間かけて産む人もいますよ」
3. 「前回のことは忘れた方が、今回のお産がスムーズに進みますよ」
4. 「今回のお子さんは小さめだし分娩時間も半分くらいで済みますよ」

24 無痛分娩(硬膜外麻酔)で正しいのはどれか。

1. 微弱陣痛に注意を要する。
2. sleeping baby が出生する。
3. 麻酔持続時間は約24時間である。
4. 局所麻酔薬を注入してから3～5分で作用する。

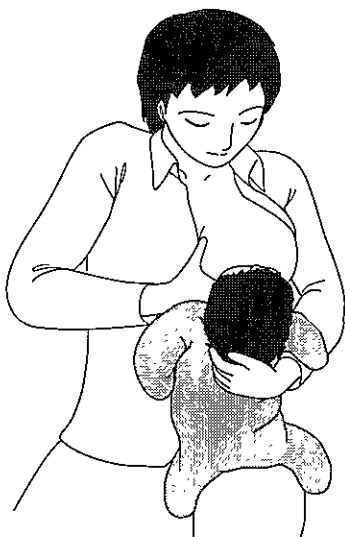
25 正常新生児に人工乳を補足すべき状況はどれか。

1. 生後2日、血糖値が40mg/dl
2. 生後3日、出生時体重から7%減少
3. 生後4日、血清総ビリルビン値が14mg/dl
4. 生後5日、体重増加が20g/日

26 産褥5日の初産婦。母乳分泌、新生児の哺乳力ともに良好である。左乳房の11時(上内側領域)と5時(下外側領域)の方向に硬結を触れる。授乳姿勢の図を示す。

この方向の乳汁分泌を促す授乳姿勢はどれか。

1. 立ち飲み



2. 抱き飲み



3. 横飲み



4. 脇飲み



27 妊婦健康診査の血液検査で HCV 抗体陽性と判明した。HCV-RNA 定量検査を行ったところ、「検出せず」との結果であった。

産科管理として正しいのはどれか。

1. 分娩は帝王切開とする。
2. 授乳の制限は行わない。
3. 新生児の HCV 抗体価検査を行う。
4. 妊婦にインターフェロン治療を行う。

28 授乳の際、新生児が適切に吸着できていることを示唆する所見はどれか。

1. 舌を鳴らすような音が聞こえる。
2. 児の下唇が外向きに開いている。
3. 授乳終了直後の乳首が平らになっている。
4. 口をすぼめた形(おちよぼ口)になっている。

29 地域母子保健活動で正しいのはどれか。

1. 支援活動の内容を一律にする。
2. 助産師が主導する活動をいう。
3. 母親同士の相互のつながりを活用する。
4. 妊娠・出産に関連した活動に限られる。

30 地域母子保健活動を行う機関と事業の組合せで正しいのはどれか。

1. 助産所 ————— 育成医療の給付
2. 福祉事務所 ————— 助産施設への入所措置
3. 児童相談所 ————— 養育医療の給付
4. 市町村保健センター ——— 療養の援護

- 31 助産師の業務について正しいのはどれか。
1. インシデントレポートは周産期の事故防止に役立たない。
  2. 助産録には新生児の保健指導の要領の記載が義務づけられている。
  3. 助産所業務ガイドラインには、自宅分娩の嘱託医の条件が明記されている。
  4. 助産師独自の判断による医療事故では、法的責任を助産師に求めることはない。
- 32 常位胎盤早期剥離のリスクを最も高める因子はどれか。
1. 喫煙
  2. 糖尿病
  3. 妊娠高血圧症候群
  4. 交通事故による外傷
  5. 常位胎盤早期剥離の既往
- 33 助産師の法的義務で正しいのはどれか。
1. 異常死産児を検査した3日後に警察署へ届け出る。
  2. 分娩介助をして記載した助産録を3年後に破棄する。
  3. 分娩費用未払いである褥婦の沐浴指導の要請を拒否する。
  4. 分娩介助した人の情報を退職後に他の医療機関の助産師に話す。
  5. 医師不在の国内線飛行機内で分娩介助した児の出生証明書を交付する。

34 妊娠中期の妊婦への貧血予防の食事指導で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 「食事のときに緑茶を飲みましょう」
2. 「ビタミンDを摂るようにしましょう」
3. 「肉類と緑黄色野菜を組み合わせで摂りましょう」
4. 「必要に応じて鉄を含む補助食品を活用しましょう」
5. 「野菜に含まれる鉄は貧血予防には期待できません」

35 新生児に対する光線療法の開始基準で、実際の体重よりも少ない体重の児に対する基準値を用いるべき病態はどれか。2つ選べ。

1. 多血症
2. 敗血症
3. 呼吸窮迫
4. 低ナトリウム血症
5. 代謝性アルカローシス

36 妊娠期および産褥期の母体循環動態を示す。

単胎妊娠の母体の全血液量は妊娠中期から増加し、妊娠 36～38 週に最高となり、以後下降傾向を示す。① ②  
50% 以上増加する。これは、胎盤血行を維持するためと分娩時の出血に備③  
えての変化と考えられる。分娩後は産褥 4～6 週で非妊時レベルに戻る。④ ⑤

正しいのはどれか。2つ選べ。

1. ①
2. ②
3. ③
4. ④
5. ⑤

37 29歳の妊婦。妊娠28週0日。昨日から1時間に1～3回の子宮収縮を自覚したため受診した。超音波検査で子宮頸管長28mmであった。医師は安静目的で入院することと予防的にリトドリン塩酸塩による持続点滴治療をする必要性を説明した。

入院治療を開始する妊婦への助産師のケアで適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 水分制限を行うよう説明する。
2. 振戦の出現の可能性を説明する。
3. ベッド上での下肢の運動を勧める。
4. 眼瞼下垂になる可能性を説明する。
5. 入浴して腹部を温めるよう勧める。

38 妊娠20週以降の双胎間輸血症候群(TTTS)の診断根拠に用いられるのはどれか。2つ選べ。

1. 羊水量
2. 胎盤の数
3. 卵膜の構造
4. 推定児体重
5. 臍帯付着部位

39 呼吸窮迫症候群(RDS)の低出生体重児に対する治療法で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 経鼻的CPAP療法
2. インドメタシンの投与
3. テオフィリン製剤の投与
4. グルココルチコイドの投与
5. 人工肺表面活性物質の投与

40 地域における子育てグループ活動を支援することとした。

適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 1回限りの活動を中心とする。
2. 親が育児を学習する機会とする。
3. 活動資金を獲得することから始める。
4. 仲間づくりによって育児不安を解消する。
5. 主たる目的は個別事例の相談対応である。

次の文を読み 41～43 の問いに答えよ。

36歳の2回経産婦。妊娠39週1日。午前0時に陣痛発来し午前1時に入院した。入院時の内診所見は子宮口5cm開大、展退度80%、Station-2。未破水。体温37.0℃、脈拍90/分、血圧130/82mmHg。1時間後、陣痛間欠3分、発作40秒、破水するとすぐに努責感が出現し、午前2時30分、3,850gの男児を出産した。羊水混濁はなく、会陰裂傷はない。胎盤娩出直後の子宮底は臍下2横指で収縮良好である。

41 新生児の出生1分後のアプガースコアは7点(筋緊張-1点、皮膚色-2点)であった。保温し、皮膚の水分を拭き取り刺激した。さらに30秒経過後、啼泣があった。筋緊張は良好で心拍数100/分以上、中心性チアノーゼを認める。

この時点の対応で適切なのはどれか。

1. 経過観察
2. 皮膚刺激
3. フリーフローでの酸素投与
4. マスクアンドバッグでの酸素投与

42 胎盤娩出後2時間。褥婦は、体温37.4℃、脈拍90/分、血圧136/84mmHgである。頭痛はない。外陰部に拍動性の痛みを訴える。

最も疑われるのはどれか。

1. 弛緩出血
2. 産褥子癩
3. 子宮内感染
4. 外陰部血腫



43 産褥1日。褥婦は、「破水したら我慢できなくてすごくいきんでしまいました。私がもう少し我慢してゆっくり産んでいたら、赤ちゃんは苦しくならなかったのでしょうか」と涙ながらに話した。

声かけで適切なのはどれか。

1. 「自分を責めているのですね」
2. 「早いお産だったから安産でよかったですね」
3. 「我慢できなかったことは気にしないでいいですよ」
4. 「そうですね。少し我慢できたらよかったかもしれませんね」

次の文を読み 44～46 の問いに答えよ。

39歳の女性。夫と2人の子どもとの4人暮らし。事務職。知人から検診センターで乳がん検診と健康相談が開催されることを聞き、参加することを決めた。会場で問診票を記載した後に助産師の面接を受けた。

44 女性は身長160 cm、体重57 kg。初経は11歳。周期は28日で規則的、量は中等量。月経痛は軽度であり、不正性器出血はない。食生活は肉や脂質の摂取が多めで、毎夕食時にアルコールを飲む。20歳代で2人の子どもを出産し、1年間母乳のみで育てた。昨年から管理職になり仕事は増えたが、とてもやりがいがあるという。会社は全館禁煙である。家族にがんを罹患した人はいない。

乳がん発症のリスクとして注意すべき状況はどれか。

1. 食生活
2. 出産年齢
3. 職場環境
4. 母乳育児歴

45 女性は助産師に「休職中の同僚が乳がんだったと知り、私も自己触診をしてみました。これからは乳がん検診を受けたほうが良いと思ったのです」と受診動機を話した。

助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 「40歳からはマンモグラフィ検診も受けるようにしてください」
2. 「早期発見しても乳房を失いますが、延命は期待できます」
3. 「40歳を過ぎたら、自己触診を始めましょう」
4. 「検診間隔は3年に1回で十分です」

46 女性は「同僚は乳房を取り、死と向き合い、子どもたちと離れて入院しています。私だったら耐えることができません。がんが発見されたらどうしたらよいのでしょうか。検診には来たものの心の準備ができていません」と話した。

助産師の最初の対応で適切なのはどれか。

1. 同僚の状況を詳しく聞き取る。
2. 乳がん検診の意義を説明する。
3. 不安な思いを整理するのを助ける。
4. まだ受検の準備ができていないと説明する。

次の文を読み 47～49 の問いに答えよ。

28 歳の初産婦。妊娠 37 週 2 日。身長 158 cm。推定児体重 2,900 g、第 2 頭位。午前 8 時に陣痛発来し、午前 11 時に 1 人で入院した。子宮口 3 cm 開大、展退度 60 %、Station-2。胎児心拍モニタリングは reassuring であった。陣痛間欠 7 分、発作 30 秒であった。パースプランには「夫と共にお産を乗り切りたい」との記載があった。

47 「お産はまだ先だと思っていたのに、急におなかが痛くなって、慌てて病院に来ました。夫は仕事を片付けてから午後 1 時ころに来ます」と話す。

最初の対応で最も適切なのはどれか。

1. 休息を促す。
2. 水分摂取を促す。
3. 夫にすぐ来院するよう連絡する。
4. 現在の分娩進行状況について説明する。

48 午後 4 時。陣痛間欠 3 分、発作 50 秒。「疲れた」と言い、ベッドでシムス位になり、夫が腰背部のマッサージを行っている。腰部の強い痛みを訴えている。

対応で最も適切なのはどれか。

1. 立位を促す。
2. 足浴を行う。
3. 腰部の温罨法を行う。
4. 夫に代わって腰背部のマッサージを行う。

49 午後6時。子宮口10cm開大、展退度100%、Station+1。胎児心拍モニタリングはreassuringであった。陣痛間欠2分、発作60秒。「いきみたい感じはない」と言う。

努責の誘導で適切なのはどれか。

1. 陣痛間欠時に誘導を行う。
2. 産婦の努責感が出現してから誘導を行う。
3. 陣痛発作時に小刻みに短く行うよう誘導する。
4. 発作直前に大きく息を吸い、可能な限り長く行うよう誘導する。

次の文を読み 50～52 の問いに答えよ。

29 歳の初産婦。妊娠 24 週から切迫早産の管理目的で入院し、子宮収縮抑制薬の持続点滴をしていた。未破水で、その他の異常を認めない。

50 妊娠 28 週 0 日。朝方から子宮収縮が強く、子宮収縮抑制薬を増量しても収縮が治まらなかった。児は骨盤位、推定児体重 1,200 g であり、超音波検査で異常を認めない。午前 9 時に帝王切開が決定された。

術前に行うのはどれか。2 つ選べ。

1. ベビー用コットを温める。
2. 産婦の血液凝固・線溶所見を確認する。
3. 胎児心拍の持続モニタリングを中止する。
4. 帝王切開の適応を産婦に丁寧に説明する。
5. 産婦にエネルギー補給飲料の摂取を促す。

51 午前 10 時、帝王切開にて児娩出となった。術中出血量は羊水含め 800 ml であった。術後 4 時間。褥婦は、体温 37.5℃、脈拍 82/分、血圧 122/78 mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO<sub>2</sub>) 95 %、尿量 65 ml/時である。腸蠕動音を聴取しない。血性悪露 15 g/時で、持続出血はない。創部からの出血や滲出液はみられない。

術後管理で注意すべきデータはどれか。

1. SpO<sub>2</sub> 95 %
2. 体温 37.5℃
3. 尿量 65 ml/時
4. 血性悪露 15 g/時
5. 腸蠕動音が聴取されないこと

52 術後 24 時間、歩行が許可となり、搾乳について指導することとなった。

褥婦への説明で適切なのはどれか。

1. 搾乳器は使用できない。
2. 児との面会は乳汁分泌に影響しない。
3. 母乳にはビタミン K が豊富に含まれている。
4. 母乳は新生児壊死性腸炎の予防に有効である。
5. 1 日 1 回の乳頭刺激によってプロラクチン分泌を維持できる。

次の文を読み 53～55 の問いに答えよ。

病院で 10 年間の勤務経験をもつ助産師。有床助産所開設に向けて準備をしている。職員として助産師 1 名、栄養士 1 名、事務担当者 1 名を確保した。車で 10 分の距離にある産婦人科病院の院長に嘱託医を依頼した。

53 助産所の管理者として管理計画を立てることにした。

管理内容で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 職員の定期健康診断は各自の判断とする。
2. 胎盤の処理は自治体の条例に則して行う。
3. 嘱託医の診察を 1 回受けた者を分娩対象者とする。
4. 臨時応急手当てに使用する医薬品の包括指示を受ける。
5. 助産所内で使用した紙オムツは一般廃棄物として処理する。

54 助産所開設後、35 歳の初妊婦 A さんが病院で分娩予定日を算出されたあと、助産所での出産を希望して来院した。母子健康手帳には B 群溶血性レンサ球菌 (GBS) が陽性と記載されていた。

A さんへの対応で適切なのはどれか。

1. 「産婦人科医と一緒にみていきます」
2. 「今後は産婦人科医の診察は必要ありません」
3. 「産婦人科医にみてもらうかどうかはあなたの希望次第です」
4. 「助産所では対応できないので産婦人科医を受診してください」



55 助産所に通っている初産婦 B さんが妊娠 38 週に陣痛発来で入院した。体温は 36.8℃。破水しており「そういえば、陣痛が始まる 1 時間前に破水したような気がします」と言う。入院後 6 時間が経過した。体温 38.0℃。子宮口 5 cm 開大、Station±0。陣痛間欠 3 分、発作 30 秒。胎児心拍数 160 bpm。

分娩時の管理で適切なのはどれか。

1. 嘱託医の医療機関に搬送する。
2. 3 時間後に産婦のバイタルサインを測定する。
3. 超音波ドプラ胎児心音計で間欠的に胎児心拍数を観察する。
4. もう 1 人の助産師に児が娩出する所に到着するよう連絡する。